

□ 書評 □

奈良 勲(監)/高橋正明(編)

臨床動作分析

(標準理学療法学・専門分野)

山中正紀

(北海道大学医療技術短期大学部理学療法学科)

私は講義のはじめに教科書あるいは参考書を何種類か紹介することになっている。私が担当している講義のなかの1つに「臨床運動学」があり、動作分析を主体として教授している。しかし、他の講義のように「教科書」や参考書を紹介することができなかった。動作分析あるいは病態運動学といった観点からまとめられた成書がなかったからである。

動作分析は運動を取り扱う理学療法において最も重要である。動作分析をすることによって対象となる患者の何が問題でどこに原因があるのかを推論し、方針が決定され、理学療法プログラムが立案される。しかし、編集者も述べているが養成教育においてはその習得が最も困難なものの1つで、学生も教師も難渋しているのが現状である。

そういった点を鑑み、本書を学生を対象とした教科書として、学生および教師の身になって企画、執筆されている。

第1章は異常動作を知るうえで基本となる正常動作はどういったものから始まり、その動作がどのような

力により動いているのかといった力学的理解を写真や図を使用し、わかりやすく説明している。第2章では事例を紹介しながら動作分析の思考過程やその事例の問題点や治療方針を提示している。第3章では理学療法の対象となる代表的な疾患の症状や動作が取り上げられている。また、教科書として編纂されているので各項目のはじめに学習目標が提示されており、読むものにとって理解を早める。

褒めてばかりいるが、ここで少し気になった点を挙げたい。1つは、理学療法の現状を考えればそれも致し方ないのかもしれないが、第1章で動作分析を力学的観点から説明し、動作が力学的に説明できるとしているが、他の章を見る限りこの点の一貫性がまちまちである。2つ目は第2章の動作分析の進め方は概念的な内容なのが仕方ないと思われるが、学生にとっては抽象的で難易度が高い。3つ目は項目の所々にアドバンスコースあるいはスタディとして解説が示されているが、各項目ごとにあれば助かる。いずれにしても教師による解説が必要であり、学生の自己学習書というよりも教科書あるいはそれに近い参考書としての利用価値が高いように思う。

動作分析は習得しにくく、最も重要なものであることから本書は学生ばかりでなく、臨床家にとっても1冊持っていて良い本だと思う。蛇足だがすでに学生には本書を紹介した。

● B5版 頁232 2001 定価(本体4,700+税)

送料実費 医学書院・刊